

研究ノート

「看図作文」のススメ

—誌上・模擬授業体験を—

森 寛¹⁾

キーワード：看図作文・400字の物語・ちょうどいい負荷・優秀作文プリント

0. 「看図作文」の誌上・模擬授業を

本誌は「全国看図アプローチ研究会」の研究誌です。記念すべき創刊号は、「実践報告」も「評論」も、すべて看図アプローチに関わる論文が掲載されていました。どの論文にも思わず頬が緩む温かい実践の数々が紹介され、拝読してほっこりとした楽しい時間を過ごすことができました。

ただ、看図アプローチの源流は、看図作文にあります。看図作文の授業にも、看図アプローチの授業に勝るとも劣らないステキな実践群があります。拙稿では、そんな看図作文について書きます。おそらく書籍・論文等では未発表の、それはそれはステキな絵図を用いた授業を紹介します。せっかくの機会なので、お読みいただく方に「誌上・模擬授業」の体験を味わっていただけると幸いです。

発問や指示は、ゴシック体にして記します。この後は児童・生徒・学生（以下、生徒）になったつもりで、「ご自分の答え」を「口に出して言う」か「手もとにメモを用意して書き出す」かしていただけると、よりお楽しみいただけるはずです。よろしければ、ぜひお試しください。

1. 絵図を読み解く

1-1. 最初は「読み解きやすい部分」から

教室に入って、挨拶をした後、次の絵図を黒板の左側に貼ります。

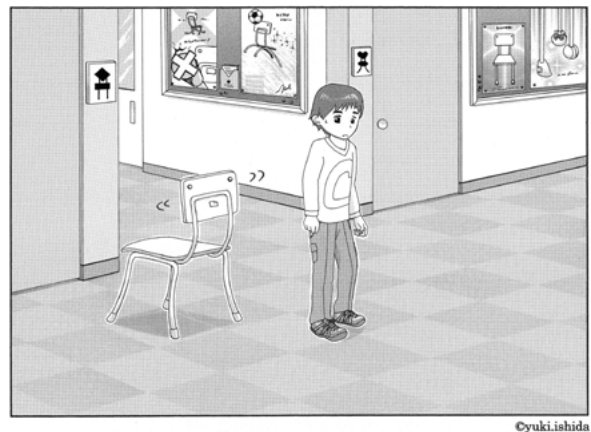


図1 イスの世界～中～

最初は、絵図の中で「読み解きやすい部分」に目を向けます。

（中央の人物を指さして）

「これは、誰でしょう？」

「少年」「男の子」「小学生」「中学生」……。どれも正解です。「ショートカットの女の子」でもOKです。

（そばにあるイスを指さして）

「これは、何でしょう？」

「イス」「イス型のロボット」……。どれもOKです。「未来のペット」でも、OKです。絵図を見た人が、そう見えたなら、みんな正解です。

ここまでは、楽しくテンポよく進めたいところです。生徒に自由に発言させてもいいですし、列

1) 札幌市立西野中学校

指名して前から順に答えさせてもいいです。トントんいきしょう。

1-2. 次は「読み解きにくい部分」も

絵図の中で「読み解きにくい部分」にも目を向けます。



図2 図1の背景部

(図2の○部を順に指さして)

「これは、何でしょう？」

一転してここは、発言が止まります。ポスターの1枚1枚が、なかなか読み解けません。4枚の関連も、なかなかわかりません。この現状を生徒が自分たちで突破してくれると、教室は間違いなく歓声と笑顔に包まれます。

自分たちで突破するように導くには、いくつかの「手立て」があります。

「手立て」の例1。あえて自由に発言させずに、まずは自分ひとりで考えさせます。「何かわかったら、前に来て、こっそり先生に教えてください」と言って、手がかりが出るまで待ちます。「わりといい線の解釈」を言える生徒が出たら、「いいね～！さすが～！」と褒めて、全体に発表させます。手がかりを少しずつシェアしていきます。機が熟してくると、教室の空気が「？」から「！」に変わります。

「手立て」の例2。3～4人のグループで机を合わせます。「周りに聞こえないように、こっそり相談してください。「このポスター、こういうことなんだ！」と、わかったら、リーダーが先生にこっそり報告してください。ジャンケンで勝った人がリーダーです。最初はグー、じゃんけんポン！」と言って、あとはグループに任せます。教室中で身を乗り出して、秘密会議が始まります。そのうちに、教室のあちこちで「？」が「！」に変わります。盛り上がりは最高潮に達します。

「手立て」の例3。比較的読み解きやすい1枚に目を向けます。図2・左から2番目の「サッカー

をしているイス」が良いでしょう。「これ、何が何してる？」と聞きます。「イスがサッカーしてる～」と答えが返ってきます。イスのそばに「キラキラ」が見えます。「このキラキラ、何だろう？」と聞きます。「サッカーしてるイスが輝いてる～」と返ってきたら、「そう。そういうポスター。ここは、そういう世界！」とだけ言って、また考える時間にします。

「手立て」の例4。それより少し読み解きにくい1枚に目を向けます。図2・右から2番目の「正面を向いたイス」です。「このイス、お行儀いい？お行儀わるい？」と聞きます。生徒はポカンとしていますが、ちょっと待ちます。すると、「お行儀いい～！」と声が上がります。「どうして？」と聞いてやると、「だって、一番左のイスは、なんか飛び跳ねてるけど、このイスはまっすぐ前を向いてるから。」と答えます。「すばらしい！おみごと！」と褒めて、「……ということは？」と聞いてやると、何種類かの答えが返ってきます。「授業中ちゃんと話を聞きましょう、ってポスターじゃない？」「生活常任委員会のポスターだよ。」「生徒会の立候補者のポスターかもよ。」などといった声が上がったら、「すばらしい！」「おみごと！」「それも正解！」と答えます。「ああ、わかった!!」と教室のあちこちから声上がるのもすぐです。

この授業では、このパートが一番のキモになります。読み解きにくいからこそ、自分たちで読み解けた喜びは格別なものになるのでしょう。生徒はこれまでに見せたことのない顔を見せてくれる、それはそれはステキな時間になるはずです。

そしてもう1つ、目を向けさせたい部分があります。



図3 図1の背景部

(図3の○部を順に指さして)

「これは、何でしょう？」

ここは、自由に発言させるといいでしょう。ふだん発言しない生徒が、「トイレの男女のマークのように見える」などと目を輝かせて答えてくれるかもしれません。「素晴らしい!」「さすが!」「おみごと!」と、多少おおげさなくらいに褒めたたえてあげたいところです。

ところで、この絵図、読者のみなさんは読み解けましたか? こんな「宝物をいくつも隠されたような絵図」ですから、自力で次々に読み解いていけると、生徒でなくてもうれしいものです。「そうかあ〜!」「なあ〜るほどなあ!」とつい声が出るか、文字どおりヒザを打つかする方もいるのではないのでしょうか。

1-3. 「もう1枚の絵図」を読み解く

まだ黒板の右側のスペースが空いています。「よくできました。さすがこのクラスです。でも、実はもう1枚、あるんです。」と、おもむろに、少しもったいぶって「もう1枚の絵図」(図4)を貼ります。

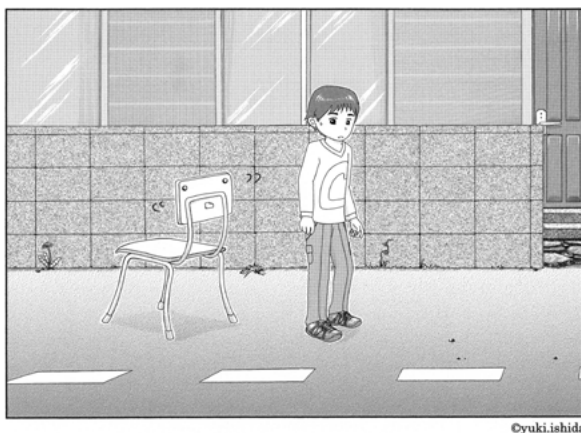


図4 イスの世界〜外〜

ここは、教室に合わせてうまく導いてください。ブロック塀の左側にある「たんぼぼ」に見える花、道に引かれた「センターライン」に見える白線などに目を向けさせると、ステキな発見が生まれるかもしれません。

1-4. 「2枚の絵図」で物語を創る

いよいよです。

「さあ、今日のメインです。勝負はここからです。この2枚の絵を『2コママンガ』のようにして、『オ

リジナルの物語』を創ります。どちらを先に、どちらを後にすると、魅力的なストーリーができますか? 自分で決めてください。1分、待ちます。」

1分待って、「中→外」の生徒、「外→中」の生徒の人数の分布を確かめます。手を挙げさせると、その度に「お〜!」と声上がるでしょう。

ここまでお読みいただいている先生は、どちらの絵図を先に選びますか?

2. 「400字の物語」を執筆する

2-1. 「条件」を伝える

この後、いよいよ作文の執筆に入ります。授業を始める前に、いくつかの「条件」を決めておきたいところです。今年度、中学校2年生を対象に「初めての看图作文」の授業をしました。次の3つの「条件」を課しました。

- ①魅力ある「タイトル」を付けること。
- ②段落は「2段落」で書くこと。絵が変わったところで、段落を変えること。
- ③原稿用紙の欄外に「中」「外」(屋内か屋外かということ)を書いておくこと。

黒板にも書いて、質問がないかを確認めて、原稿用紙を配付します。字数は400字です。私の授業では、④「最後の行まで書くこと」が不文律となっています。また、授業が終わるまでに書き終えることができなかったら、⑤「その日のうちに提出すること」も約束になっています。

実質は5つの「条件」が課せられていますが、これは私の授業の場合です。授業をする際には、教室に合った「ちょうどいい負荷」をかけたいところです。

2-2. 執筆に入る

この後は、余計な言葉を発することなく、授業終了のチャイムが鳴るまで執筆を見守ります(動画1・写真1)。チャイムが鳴ったら、提出できる生徒の作文は集めます。提出できない生徒の作文は、教科係の生徒に集めさせて、その日の清掃時間までに受け取ります。



動画 1 作文執筆に没頭する生徒たちの様子
(編集委員会注；動画は 20 秒程度です。全国看図アプローチ研究会公式 YouTube チャンネルでご視聴頂けます。<https://www.youtube.com/watch?v=OeAzOhhVV5o>)



写真 1 作文執筆に没頭する生徒たちの様子

3. 「優秀作文プリント」を読み合う

3-1. 優秀作文の「よさ」を共有する

生徒から集めた作文を教師はその日のうちにすべて読みます。読んだ中から、「これは全員に紹介したいな。」と思えるものを選びます。私の場合、8 枚を選ぶことが多いです。縮小コピーを 2～3 度すると「A4 両面で 1 枚のプリント」にできるからです。

2019 年の 11 月、鹿内先生と石田先生に勤務校に足をお運びいただきました。一日、授業を参観していただいて、その授業で誕生した作文を紹介します。

プリントの最初の方には、「比較的オーソドックスな作文」として書かれたものを紹介します。「中→外」の順で書かれた作文です。

作文例 1

「寝るって怖い」

彼の名前は林りゅういち。趣味は寝ることだ。「うわ。一時間目から社会かよ。ねむいし寝よ。」いつものようにりゅういちが寝た。目を覚ますとりゅういちはおどろいた。「え、外暗くね？十時!! ねすぎた。」りゅういちがあわてて教室を出た。「！」目の前はいすの世界だった。「夢か？」生徒会長の近藤くんのポスターもサッカー部エースの永井くんのポスターも

全部いすになっていた。後ろを向くといすがついてきていた。いすが言った。「夜遅くに生徒さんだ。安心しろ。夜はいす世界だが朝になればまた普通の学校に戻る。」りゅういちがホッとした。しかしすぐにゾッとした。服のようが C になっている。チェアの C だ。朝はりゅういちの R だったのに。

りゅういちが怖くなって外に出た。いすは相変わらずついてきている。必死になって逃げた。もう朝だ。しかしまだいすの世界。家をのぞくといすが生活している。「どうなるんだ!!」いすはニヤリと笑った。

400 字ぴったりの作文です。4 枚の「ポスター」の謎を解いているのがわかります。「会話文」もイキイキしています。「服の文字」まで独自の解釈をしています。授業のあった次の時間、「優秀作文プリント」として配付して教室で読み上げていくと、何度も「おー。」という声が上がります。生徒は、作文に目をやりながら、絵図にもチラチラ視線を送ります。

次の作文です。「ユーモアのあるオチャラケな作文」として書かれたものも、「優秀作文プリント」の中盤に入れるようにします。「外→中」の順です。

作文例2

「モテたあああ〜い」

彼は中学2年生。彼にはあるなやみがある。それは、恋である。イケメンでもないし、運動神経がいいわけでもない。でも、彼はモテたいのだ。そんなある日、ゆめを見た。生きているかのように動くイスが彼をある場所へつれていこうとしている。彼はイスのゆうどうにしたがい、家を出た。

彼が着いた場所は、ものすごく大きい家だった。中に入ると、たくさんのポスターがはってあり、その全てがイスでうめつくされていた。すると、あるおばあさんがでてきた。「あんた、恋についていろいろなやんでるね？」そう言うと、2つの部屋を用意した。1つはモテる男の性かくについて学べる所。2つ目は女子がキュンとする男の性かくについて学べる所だった。「言い方変えただけでどちらも同じじゃねーか。」と彼は思った。そして彼はハートの部屋を選んだ（女子がキュンとする男の性かく）。彼はいろんなことを学んだ。はたして彼はモテることはできるだろうか。

「トイレのマーク」の解釈がユニークです。絵図には描かれていない「おばあさん」を登場させているところもユニークです。生徒たちはプリントの文字を目で追っています。「おもしろポイント」がより伝わるような速さと声の調子で音読すると、爆笑が起きます。書いた本人は、満足そうな顔をして聞いています。

もう1点、紹介しましょう。「優秀作文プリント」の最後の方には、「レベルの高い、そうきたか作文」を紹介します。「外→中」の優秀作文です。

作文例3

「僕のペット」

僕はスワ郎。イスの町に住んでいる。最近ペットに人間を飼うことがはやりだ。早速、僕も、ポチという人間を飼い始めた。僕たちとは違って人間は食べ物を食べる。そして、

外が暗くなると、目を閉じてじっとしている。僕はポチが大好きだ。僕の通っている学校はペットを連れて行っても良いので、今日はポチと一緒に登校した。ポチは二本足で歩いている。すごい…。そんなことを思いながら学校に着いた。

僕たちが通っている学校は、男イスと女イスによって、勉強する教室が分かれている。正直、ポチをどちらの教室に行かせるか迷った。人間に性別ってあるのかな…。とりあえず、僕と一緒に教室に入った。すると、いきなりポチが僕に座ってきた。痛い。あと、重いんですけど…。だんだん座られるにも慣れてきた。ポチは、「ニョロニョロ口」とか「ああああ」しかしゃべらない。誰に似たのだろうか…。そんな毎日を僕は過ごしている。

この作文の非凡なところは、イスが人間をペットにしているという「設定」です。イスは自分を「スワ郎」と名乗り、人間を「ポチ」と呼んでいます。「ポチは二本足で歩いている。すごい…。」と感心したり、「人間に性別ってあるのかな…。」と疑問に思ったりしているところは、なかなかのセンスです。ちなみに、最後の「ポチ」の台詞「ニョロニョロ口」や「ああああ」は、教科担任である私が授業中にぼーっとしている生徒に向けて与える「刺激の言葉」です。生徒は作文のこの台詞を聞いてニヤリとします。

4. 書き添えておきたいこと

4-1. 3つの「柱」が授業を支える

「看図作文の授業」は、「普段のカたい授業」とは〈進め方〉や〈空気〉が違います。「非日常の授業の感じ」が生徒のワクワク感を高めるので、次のような「柱」を位置づけておきます。

A「前時の優秀作文」の紹介

B「本時の絵図」の解釈

C「本時の作文」の執筆

もうおわかりでしょうか。「A」は前節の「3.『優秀作文プリント』読み合う」に当たります。また、

「B」は最初に記した「1. 絵図を読み解く」に、「C」は「2. 『400字の物語』を執筆する」にそれぞれ対応します。

授業を進める際に「はい、では次へ進みましょう。」などと、「柱」ごとに区切りをつけていくとメリハリが生まれます。生徒の集中力がより高まります。

「看図作文の授業」をする際、1時間だけの単発の授業でもいいのですが、2～3時間くらい続けて行う方がより効果的です。「優秀作文プリント」に載ろうと生徒が燃えるからです。3回続けて授業を行うと、[8人] × [3枚] で「24人分の作文」を紹介できます。意図的・計画的に「生徒を認める機会」が生まれます。

4-2. 研究授業や公開授業には「もってこい」

「看図作文の授業」は、研究授業や公開授業には「もってこい」です。昨今の研究テーマとなる「主体的・対話的で深い学び」でも、「アクティブラーニング」でも、どうにでもなります。教室にいるすべての生徒が授業に集中し、全員が作文を書き上げ、読んでみると個性もあってレベルも高い……。そんな姿を参観者は目の当たりにします。生徒の本気の姿にふれると、他の教科の先生方も、自分の授業の在り方を見つめ直すのではないのでしょうか。

生徒も先生も参観者も楽しみながら絵図を読み解いているうちに、「主体的な学び」も「対話的な学び」も「深い学び」も、すべて見事に成立させてしまいます。それが「看図作文の授業」です。

4-3. 「新たな課題やテーマ」が浮かぶことも

「看図作文の授業」では、授業を進めているその真っ最中に、授業者の頭の中に「個人的な問題意識」や「新たなテーマや課題」が浮かぶことがあります。また、授業中だというのに教師が感じた問題の「解決の糸口」が浮かぶことがあります。さらに、「新たな授業アイデア」が浮かぶこともあります。ですから、私は2学期の後半や3学期に授業をするようにしています。次年度の「テーマ」の候補にしたいからです。

このあたりのことは、具体例がないとなかなか

伝わりにくいことなので、「私の場合」を付表として最後に載せます。A4で1ページの資料です。これは校内研修会で冊子として綴じられたものです。参考にしていただけると幸いです。

以上、「看図作文の授業」についてお伝えしました。本当にオススメです。

文 献

鹿内信善 2003 『やる気をひきだす看図作文の授業—創造的〔読み書き〕の理論と実践—』春風社

鹿内信善編著 2010 『看図作文指導要領—「みる」ことを「書く」ことにつなげるレッスン—』溪水社

鹿内信善編著 2014 『見ることを楽しみ書くことを喜ぶ 協同学習の新しいかたち ● 看図作文レパトリリー ●』ナカニシヤ出版

2020年2月2日受付

2020年2月4日受理

付 表

【国語科】	授業者：森 寛
「深い学び」の留意点 ～「非・対話的な学び」も選択肢に～	
1. 実践までの経緯 ～「看図作文」を題材に選んだ理由～	
今年度、校内研究のテーマが【「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善】と決まった時点で「看図作文」の授業をしようと考えた。最大の理由は、【生きて働く「知識・技能」の習得】を踏まえた上で、【未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成】を学習の中心にすることができるからである。さらには、【学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養】に近づけられるからである。	
2. 実際の授業の様子 ～「交流」の在り方を見直す契機～	
「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、授業の中の「交流」は欠かせない。これまでは、「ペア学習／交流」「グループ学習／交流」「全体学習／交流」といった〈規模〉の違いを、〈授業の目的〉・〈指導の時期（≒段階）〉・〈交流に使える時間〉などとの兼ね合いで、授業をしながら選んできた。この「交流」の「場合分け」の「枠組み」について、見直せないだろうか——。これが今回の授業の「隠れマイ・テーマ」であり、「問題意識」の中心であった。授業を進めながら、あれこれと「考えごと」をしていたのである。	
3. 授業後の考察 ～「交流しない自由」も選択肢に～	
今回の研究授業では、2時間分の指導案を作成・配付していた。持ち学級が4クラスのため、8コマ分を公開したことになる。同じ中身の授業であっても、進み方（≒授業のパーツの所要時間）は微妙に異なる。作文を執筆する前の段階に限っても、「前時に執筆した作文を読み合う時間」や「絵図を解釈する時間」は、クラスによってかなり違った。必然的に「交流」に許される時間が大きく変わってくことに改めて気づかされた。	
困った時にはえてして良い考えも浮かんでくるものである。今回、授業をしながら新しい「交流」の仕方を思いついた。備忘のために記しておきたい。指導案にして作成・配付していない3時間目の授業である。解釈が難しい2枚の絵図のうち、どちらか1枚だけを選んで400字の物語を書く時間である。この時の「交流」を次の指示で進めた。「Aの絵図を選んだ人は教室の前で、Bの絵図を選んだ人は教室の後ろで交流しても構いません。また、【自分は交流はしない、自分だけで考えたい】という人は、自分の席で考えていても構いません。」	
参観してくれた先生からのコメントには、【「話しても話さなくても良い」という指示の中で、子どもたちが自ら席を立てて交流し合っているのが、交流のメリットを感じている証拠だと思いました。】とあった。これに加えて、私は「交流しない自由」も、生徒にとってのメリットであると捉えている。（後掲の参考写真1・2参照）	
4. 「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善 ～「深い学び」の留意点～	
「主体的・対話的な学び」となると、「ペアやグループの学習」「話し合い」「ディベートや討論」「プレゼンや発表」などといった学習活動が、授業の中心となることが多い。いってみれば「音声言語が交わされる時間」である。これはこれでいい。ただ、「主体的で深い学び」を実現するためには、「文字言語が交わされる時間」を充実する必要がある。そのためには、あえて「交流しない自由」を選択肢に残すことも必要になってくる。「全員でワイワイ話す時間」は、確かに活発に見えるが、本当に大切な場面では「1人でじっくり考える時間」を確保してやりたいものである。	

参考写真



参考写真 1



参考写真 2